

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電 話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <https://zensuiren.org/>
お問い合わせ info@zensuiren.org
編集・発行 椿本和幸



重信川受け継がれる泉 (国土交通省 四国地方整備局提供)

● 目 次

水防月間をかえりみて.....	2
遠賀川水系遠賀川中間堰完成式典	4
法勝寺川青木地区河川改修事業完成式	7
四万十川「具同・入田堤防事業」竣工式.....	10

水防月間をかえりみて

国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課 水防企画室

本格的な出水期前の5月(北海道は6月)に実施している水防月間が終了しました。

この月間は、水害の未然防止又は軽減に資することを目的として、国民全般に水防に関する基本的な考え方の普及を図り、水防の意義及び重要性について理解を深めていただくため、昭和62年度から毎年実施しているものです。

今年も国土交通省、内閣府、都道府県、水防管理団体(市町村等)の主催により、関係行政機関等の後援、全国水防管理団体連合会、公益社団法人全国防災協会ほか関係団体の協賛を得て、「洪水から守ろうみんなの地域」をテーマに、水防に関する広報活動や総合水防演習の実施、水防技術講習会や水防連絡会の開催、重要水防箇所の水防管理団体との合同巡視、河川管理施設の点検などの取組を全国各地で実施しました。

広報活動としては、ポスターやリーフレット、パネル展示等を通じて『水防』の啓発を行うとともに、国土交通省のTwitter、政府広報のBSテレビ番組「ピックアップ!～霞が関からのお知らせ～」、新聞突き出し広告、Yahoo!バナー広告により、水防月間の取り組みの紹介や水害への備えの重要性を呼びかけました。

また、関係機関と住民が一体となった水害への取り組みを強化するため、北海道から九州まで全国9箇所の河川において、各地方整備局等と地元自治体の主催のもと総合水防演習を実施しました。

国土交通省では、社会全体で水害に備える「水防災意識社会」の再構築を進めており、これを加速するとともに、洪水等からの「逃げ遅れゼロ」と「社会経済被害の最小化」を実現することを目指し、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を総合的かつ一体的に推進しているところです。

今回の総合水防演習は、これらの趣旨を踏まえ、水防団を中心とした水防工法訓練を行うとともに、水防団が水防技術を競う水防技術競技大会の実施や、要配慮者利用施設の避難訓練、地域の建設業者と連携した訓練、演習に合わせたエリアメール配信による緊急速報メールプッシュ型配信訓練等を地域の学校、企業、住民の方々や関係機関の参加のもと実施し、出水期を前に水防体制の強化、水防技術の研鑽、地域の水防意識の高揚につながる、充実した訓練となりました。

国土交通省といたしましては、安全で安心できる地域社会を実現するため、河川改修等の整備を積極的に推進していますが、洪水等が発生した際の被害の防止・軽減には浸水防止や避難確保といった水防活動が極めて重要です。今後とも、より効果的な水防活動が実施されるよう関係機関の連携を強化するとともに、地域の住民や企業などの水防への参画を推進し、洪水時等における「地域の水防力」の向上を図って参ります。

【水防月間リーフレット】



2019年度 総合水防演習実施箇所

	演習名	実施日	実施場所
北海道開発局	鶴川・沙流川合同総合水防演習	6月15日(土)	鶴川水系鶴川左岸(北海道勇払郡むかわ町宮戸地先)
東北地方整備局	阿武隈川上流総合水防演習	5月26日(日)	阿武隈川水系阿武隈川左岸(福島県郡山市富久山町福原地先)
関東地方整備局	第68回利根川水系連合・総合水防演習	5月18日(土)	利根川水系渡良瀬川左岸(栃木県足利市五十部町地先)
北陸地方整備局	庄川・小矢部川総合水防演習	5月18日(土)	庄川水系庄川左岸(富山県高岡市出来田地先)
中部地方整備局	豊川・矢作川連合総合水防演習・広域連携防災訓練	5月19日(日)	矢作川水系矢作川右岸(愛知県豊田市白浜地先)
近畿地方整備局	淀川水防・大阪府地域防災総合演習	5月25日(土)	淀川水系淀川左岸(大阪府大阪市旭区太子橋1丁目地先)
中国地方整備局	佐波川総合水防演習	5月25日(土)	佐波川水系佐波川左岸(山口県防府市古祖原地先)
四国地方整備局	重信川総合水防演習	5月12日(日)	重信川水系重信川右岸(愛媛県松山市井門町地先)
九州地方整備局	白川・緑川総合水防演習	5月19日(日)	白川水系白川左岸(熊本県熊本市中央区本山2丁目地先)



要配慮者避難訓練
(庄川・小矢部川総合水防演習)
※演習会場で訓練の様子を放映



水防技術競技大会
(阿武隈川上流総合水防演習)



自衛隊等による訓練(土のうづくり)
(白川・緑川総合水防演習)



少年消防団クラブによる水防活動支援
(第68回利根川水系連合・総合水防演習)

遠賀川水系遠賀川中間堰完成式典

国土交通省 九州地方整備局 遠賀川河川事務所

1. はじめに

遠賀川は、福岡県北部に位置し、日本の近代化を支えた石炭産業の輸送路として活用されるなど、古くから人々の生活、文化に深い結びつきを持っています。

国直轄による河川改修の歴史は古く、明治39年に石炭産業の発展を目的に第1期改修工事を開始、大正8年には完了しましたが、昭和に入り石炭の採掘量が急激に増加したことを踏まえ、終戦直後の昭和20年には、国土復興の観点から、第2期改修工事を開始しました。その後、着実に治水対策は進めてきましたが、度重なる浸水被害を踏まえ、遠賀川下流部の治水上の阻害となっている中間堰について、平成21年度に特定構造物改築事業として改築に着手しました。その後、平成31年3月に完成したことを踏まえ、完成式典を行いましたので報告します。



中間堰位置図

2. 中間堰の概要

中間堰は、遠賀川河口から約11kmに位置し、施設管理者は日本製鉄株式会社です。

官営八幡製鉄所(当時)は、明治期の一大国家プロジェクトとして、明治34年に創業、遠賀川水源地ポンプ室は、製鉄所の生産量を2倍とする第一次拡張工事に伴い、新たな水源を遠賀川に求めるため、明治43年に完成しました。

中間堰は、この遠賀川水源地ポンプ室の取水安定のため、昭和4年に完成。約90年間取水し、今なお製鉄業を支えています。なお、遠賀川水源地ポンプ室は「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録されています。

3. 中間堰特定構造物改築事業の概要

遠賀川では、昭和28年洪水において、中間堰上流の直方市植木地区において、堤防が決壊するなど甚大な浸水被害が発生しました。近年においても平成13年、15年、21年、22年と度重なる洪水が直方市、飯塚市など、流域各地において発生しました。

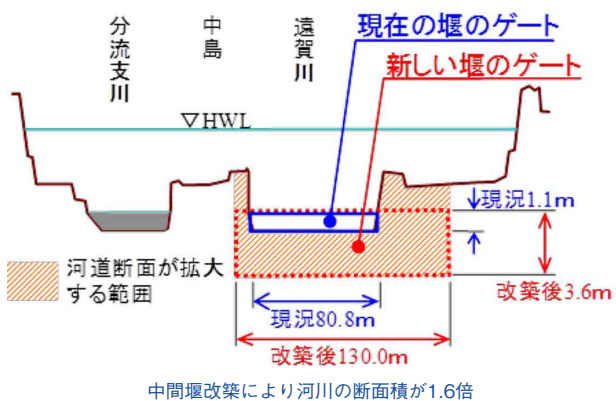
頻発する洪水を踏まえ、床上浸水対策特別緊急事業等により治水対策を進めてきましたが、遠賀川下流部では、中間堰が治水上の阻害となっていたため、平成21年度から国土交通省九州地方整備局が事業主体として中間堰を改築する特定構造物改築事業に着手し、平成31年3月に完成しました。

中間堰改築により、川幅を約140mに広げるとともに、川底を約2.5m掘り下げることによって、河川の断面積が改築前より約1.6倍まで拡大し、遠賀川中下流部の治水安全度は大幅に向上します。堰高は3.63mで鋼製起伏式ゲートとして日本最大級の規模となっています。

中間堰改築にあたっては、ゲート直下の土砂堆積を防ぐために、ゲート構造の工夫として、スクリーンと背面版を設置。また、洪水時に流木による閉塞を防ぐために堰柱を工夫するなど、様々な構造上の工夫をしています。また堰操作室については、世界遺産である「遠賀川水源地ポンプ室」の良好な景観への配慮も行っています。

なお、堰改築中であった平成30年7月の洪水では、遠賀川流域各地で観測史上最高水位を記録、特に中間堰上流に位置する直方市街部においては、堤防高ギリギリまで水位がくるとなりましたが、今回の中間堰改築と、事業実施中である中間堰上流の河道掘削によって、直方市街部において約80cm水位が低下するなど事業効果が発揮されることになります。

中間堰改築により、治水面からは遠賀川本川の水位低下、利水面からは、新たな設備で安定した取水により、地域産業の発展に寄与することが期待されています。



旧中間堰



改築した中間堰

4. 遠賀川水系遠賀川中間堰完成式典

平成31年3月の完成を踏まえ、令和元年5月25日（土）、流域自治体首長から構成される「遠賀川改修期成同盟会」、施設管理者の「日本製鉄株式会社」、事業主体の「国土交通省九州地方整備局」主催で完成式典を開催しました。

式典には、地域の方々、国会議員、福岡県副知事、中間市長、水管理・国土保全局治水課長、学識者、施工関係者など約200名が参加しました。オープニングとして、双葉保育園児及び希望が丘高等学校吹奏楽部が演奏等を行いました。その後、九州地方整備局長の式辞があり、引き続き国会議員及び福岡県副知事等から祝辞をいただき、水管理・国土保全局治水課長及び中間市長の挨拶、遠賀川河川事務所長より事業映像紹介、遠賀川改修期成同盟会会長の直方市長より謝辞がありました。

その後、園児、来賓等による「くす玉開披・風船リリース」を行い、中間堰完成を祝いました。終わりに来賓等による「もちまき」を行い、園児や地域の方々も笑顔で帰られていました。



風船リリース



もち投げ



伊勢田九州地方整備局長式辞



(衆) 三原議員祝辞



(参) 大家議員祝辞



(参) 野田議員祝辞



井上治水課長挨拶



福田中間市長挨拶



パネル展示

5. おわりに

今回の中間堰の完成を受けて、周辺地域では、新たな試みが始まっています。地域住民や商工会関係者等から構成される「遠賀川かわまちづくり推進協議会」が発足、協議会では世界遺産である「遠賀川水源地ポンプ室」や中間堰周辺のまちなみを活かし、フットパスの整備普及や水辺整備を行うことで、観光客の誘致や地域活性化を目指す「かわまちづくり計画」を作成、平成31年には、かわまちづくり計画が認定されました。

今後は地域住民、商工関係者、自治体、河川管理者が一体となって、かわまちづくり計画を推進するなど、周辺の賑わいや観光客誘致の取組が本格化していきます。

遠賀川河川事務所では、長年の懸案であった中間堰改築の完了を契機に更に流域の治水安全度向上を加速させるとともに、中間地区をはじめ、流域各地で、地域振興に資する水辺を活かしたまちづくりも進めてまいります。

最後になりますが、中間堰改築にご理解・ご協力をいただきました地域住民・関係自治体の方々、様々な段階でご助言を頂きました学識経験者の方々、設計や施工の段階でご尽力頂きました企業の方々など、事業に関わった全ての皆様に厚く御礼を申し上げます。



遠賀川を活かした河川空間の創出

ほっしょうじ 法勝寺川青木地区河川改修事業完成式

国土交通省 中国地方整備局 日野川河川事務所

1. はじめに

法勝寺川は、鳥取県西部の1市6町1村を流域に日本海に注ぐ日野川の支川です。日野川下流域に位置する米子市街地は扇状地を形成しており、洪水により日野川や支川法勝寺川の堤防が決壊すると、米子市中心市街地まで浸水が到達するなど甚大な被害が発生する恐れがあります。また、当地区では法勝寺川の水位上昇による支川小松谷川への背水が生じ、平成18年7月洪水、平成23年9月洪水等の出水により内水氾濫が頻発していました。

このため、法勝寺川青木地区河川改修事業を平成23年度に着手し、概ね8か年に渡る整備がこの度完了しました。



令和元年6月1日、当事業箇所隣接する米子市立尚徳小学校にて、「法勝寺川青木地区河川改修事業完成式」を執り行いました。

完成式には、米子市長をはじめ地元選出国會議員や地元関係者、工事関係者等約80名が出席し、事業の完成を祝いました。



平成23年9月洪水による小松谷川支川の浸水状況



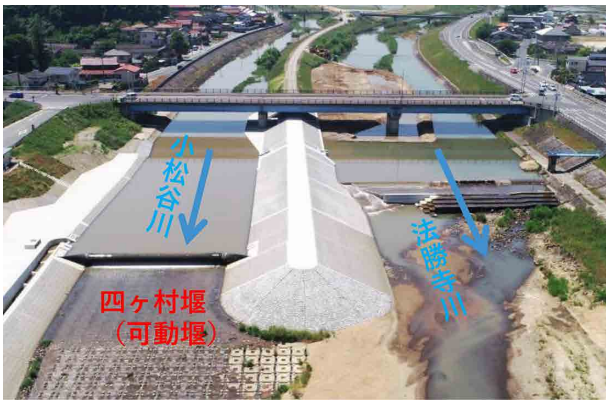
平成23年9月洪水時の排水活動状況

2. 事業の概要

法勝寺川青木地区河川改修事業は、法勝寺川の戦後最大洪水に対する浸水被害の解消、支川小松谷川等の沿川の内水氾濫に対する床上浸水の解消及び内水被害時間の軽減を目的に法勝寺川の流下能力不足解消するための河道掘削、橋梁撤去等、及び法勝寺川から小松谷川への背水影響を軽減するための樋門撤去、可動堰の建設、背割堤のかさ上げ等、約38億円の事業費をもって実施しました。

3. 出水被害の概要と整備効果

法勝寺川の青木地区おきまして、平成23年9月洪水では家屋浸水14戸、浸水面積約57haの内水氾濫被害が発生しましたが、平成30年9月洪水では平成23年9月洪水を上回る流量が観測されたにもかかわらず、河道掘削や樋門・橋梁撤去等が完了していたため、支川小松谷川の水位は整備前と比べ約2.5m低下し、小松谷川沿いの浸水被害は大幅に軽減するなど当事業の整備効果がみられました。



法勝寺川青木地区河川改修事業の整備状況
(上段:整備前 下段:整備後)

4. 完成式の概要

法勝寺川青木地区河川改修事業完成式では、米子がいな太鼓保存会に所属する「尚徳子供連」による「米子がいな太鼓」の演奏に始まり、伊木米子市長、高橋国土交通省水管理・国土保全局治水課流域減災推進室長の挨拶、赤澤衆議院議員、青木参議院議員、舞立内閣府大臣政務官・参議院議員、鳥取県知事代理の高橋統括監の方々からのご祝辞をいただきました。



赤澤衆議院議員 祝辞



高橋鳥取県知事代理 祝辞



青木参議院議員 祝辞



伊木米子市長 挨拶



舞立内閣府政務官・
参議院議員 祝辞



高橋室長 挨拶



尚徳子供連による「米子がいな太鼓」の演奏



祝賀行事くす玉開披



西事務所長による事業の経過報告

引き続き、地元より「法勝寺川・小松谷川を美しくする会」の大塚会長より期待の言葉、西国土交通省中国地方整備局日野川河川事務所長による事業の経過報告、完成を記念して渡辺米子市議会議長の発声による万歳三唱が執り行われました。

その後、祝賀行事として当会場において、斉木鳥取県議会議員のかけ声によるくす玉開披を行い完成式が終了しました。

5. おわりに

この法勝寺川青木地区河川改修事業の完成により、米子市街地に及ぶ法勝寺川の氾濫及び青木地区で頻発していた内水被害の大幅な軽減に寄与することとなります。しかしながら、昨今の地球温暖化などの気象変動により時間雨量百ミリを超える豪雨が頻発するなど、自然災害リスクの増大も懸念されています。このことから、施設整備してもその能力を上回るような災害がいつにくるという認識を持つことが重要であり、今後とも「水防災意識社会」の再構築を目指して、関係機関と地域住民の方々が目的を共有し、ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策を強力に推進していきます。

四万十川「具同・入田堤防事業」竣工式 ～四万十市街地を守る堤防が完成～

国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所

1. はじめに

四国西南部を流れる四万十川は、良好な水質、美しい河川景観、多様で豊富な生態系、地域住民による保全活動など清流として名高く、河川そのものが観光拠点となっています。しかし、流域住民に恵みをもたらす一方で、過去より氾濫を繰り返している「暴れ川」でもあります。特に、四万十川下流に位置する四万十市は、四万十川本川と2本の支川に挟まれた氾濫域が市街地であり、治水対策は地域振興の要となっています。

今回、市街地を守る堤防区間で、唯一の弱小堤防であった具同・入田堤防事業が完成し、令和元年6月2日(日)に竣工式を執り行いましたので、ここに報告致します。



四万十川の代表的な景観



位置図



渡川流域図

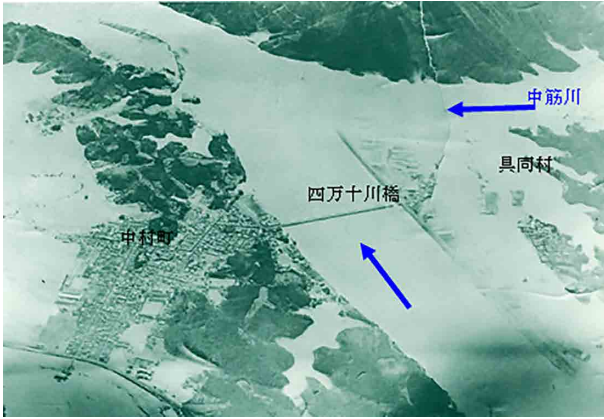
2. 事業の概要

四万十川のある渡川流域は、流域面積2,186km²、幹川流路延長196kmの一級河川で、流域の92%を山地が占め下流部のわずかな平地に人口と資産が集中しています。

国直轄による河川改修事業は、昭和4年に着手し、河道掘削、新堤防の築造、旧堤防の拡幅などが行われました。しかし、昭和10年8月洪水では、入田地区の堤防が決壊し、床上・床下浸水を併せ4,000戸を超える甚大な被害を受けています。さらに、戦争や南海大地震による被災を受けながら治水事業を進めてきました。

今回の事業は、平成27年2月に策定された「渡川水系河川整備計画」に基づき、「戦後最大規模洪水と同規模の洪水を安全に流す」ことを目標に事業を進めていたもので、四万十市の具同地区と入田地区の堤防計画区間4.1kmのうち、暫定断面であった1.25km区間について、堤防拡幅工事を行ったものです。また、堤防天端の四万十市道具同坂本線、堤脚の市道具同三里線の改築も合併事業として実施しました。

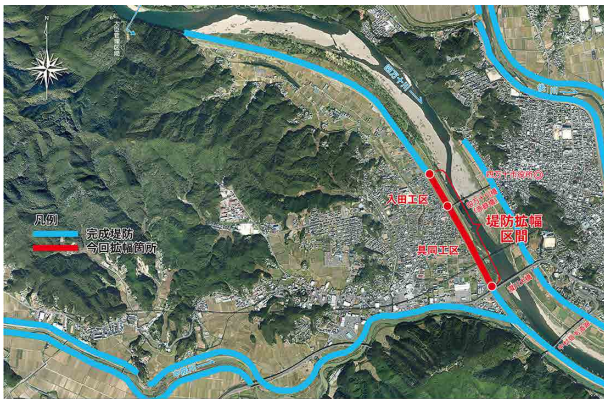
本事業は、平成22年度に事業化し測量設計に着手、平成24年度から26年度にかけて地元説明会を実施、平成27年に工事着手し平成31年4月に市道工事が完了したことにより事業が竣工しました。



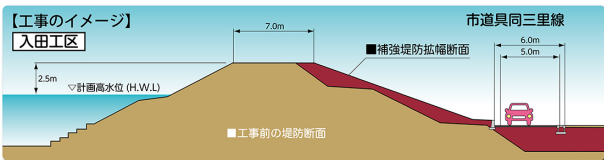
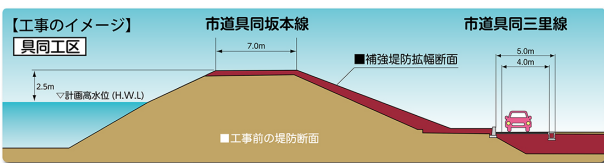
昭和10年の堤防決壊による浸水状況



具同・入田堤防事業箇所図



具同・入田堤防と堤内地



具同・入田堤防事業断面図

3. 事業の効果

具同・入田地区は、四万十川と支川中筋川に囲まれ、水害の課題を抱える地区でしたが、治水対策の整備に伴い、多様な商業施設の進出が続いています。現在では四万十市内事業所の8割が集積し、幡多地域の7割を超える買い物客が四万十市に集中するなど、高知西南地域の産業・経済の拠点地域へと変貌しています。



四万十市街地の状況と具同・入田堤防位置

4. 竣工式の概要

竣工式は、当初、事業実施箇所である河川内の高水敷を予定していましたが、降雨のため近傍の具同小学校体育館に変更し、地元選出の国会議員の皆さまや中平四万十市長、地元関係者、用地協力者、工事関係者など約100名の方々にご参加頂きました。

式典では、平井四国地方整備局長が「具同・入田堤防事業の完成によって、四万十市街地唯一の弱小堤が解消された。本堤防によって守られる具同・入田地区は、大型商業施設の進出や交通ネットワークの形成によって人口減少時代の近年においても人口増加が続いている地域である。事業の完成によって安全・安心が飛躍的に向上し、地域の発展に大きく寄与すると考えている。」と式辞を述べられました。

続いて中平四万十市長からは、「具同・入田堤防事業の完成により今後の四万十市のさらなる発展へ繋がるものと確信している。また、市道具同坂本線、具同三里線の整備により、地域交通の利便性向上や住環境が改善された。引き続き関係各位の支援をよろしく願いたい。」との挨拶がありました。



平井秀輝 四国地方整備局長



中平正宏 四万十市長



山本有二 衆議院議員



広田一 衆議院議員



武内則男 衆議院議員

また、来賓者を代表し、山本有二衆議院議員、広田一衆議院議員、武内則男衆議院議員からご祝辞を頂きました。その後、伊賀事務所長より事業経過報告を行い「くす玉開披」と、関連行事として「餅投げ」を行い事業の竣工を祝いました。



くす玉開披



餅投げ

5. おわりに

四万十川沿川では、堤防整備の進捗や支川上流部でのダム建設の進捗などにより治水安全度が向上し、これらを背景に道路整備の進捗、事業所の集積、大規模店舗の出店などが相次いでいます。また、河川公園の整備、多自然川づくりや自然再生事業の推進などにより河川イベントも多彩に催されるなど、周辺地域はもとより多数の来訪者が訪れています。

今後とも、地域の皆様が安全・安心に暮らすことが出来、また地域の更なる発展に繋げるためにも引き続き、河川整備と河川の維持管理に努めて参ります。

結びに、本事業の竣工は、貴重な用地を提供して頂いた地権者の方々をはじめ、各関係機関、関係者の方々のご支援・ご協力の賜であり、紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。